



ペタッとSDGs

新聞学習ふせん

【体験版】

朝日新聞

ペタッとSDGs

新聞学習ふせん

1 貧困を なくそう	2 飢餓をゼロに	3 すべての人に 健康と福祉を	4 質の高い 教育を みんなに	5 ジェンダー 平等を 実現しよう	6 安全な 水とトイレを 世界中に

7 エネルギーを みんなにそして クリーンに	8 働きがいも 経済成長も	9 産業と 技術革新の 基盤をつくろう	10 人や国の 不平等を なくそう	11 住み続けられる まちづくりを	12 つくる責任 つかう責任

13 気候変動に 具体的な 対策を	14 海の豊かさを 守ろう	15 陸の豊かさも 守ろう	16 平和と公正を すべての人に	17 パートナーシップ で目標を 達成しよう	18

「ペタツとSDGs」を使って 思考を見える化

SDGs (Sustainable Development Goals、持続可能な開発目標)は「誰も置き去りにしない」を基本方針に、2030年までに世界が取り組む行動計画で、17分野のゴールが掲げられています。2015年の国連総会で全会一致で採択されました。

朝日新聞には、これら17のゴールと関連する記事が数多く掲載されています。ゴールを意識しながら記事を読み、みんなと思考を共有することで新たな気づきが生まれ、課題解決に向けた様々な取り組みが可能になります。

準備するもの

- ペタツとSDGs (1人3枚程度、各自で切り分けます)
- 朝日新聞 (1人1部ずつ、全体の掲示用2部)
- 筆記用具、のり、はさみ(各自)



進め方

はじめる前に



壁などに朝日新聞の全ページを右から1、2、3ページと続けて貼り出しておきます

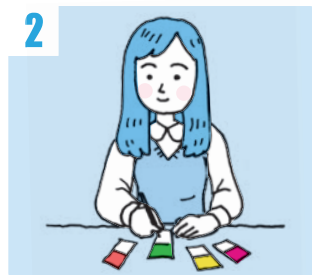
1



SDGsを意識しながら新聞を読み「17のゴール」に関連する記事を三つ以上探そう

ポジティブ・ネガティブどちらの視点でもOK

2



記事と関連するゴールのふせんを選び、余白に「つぶやき」と「名前」を書こう

関連するゴールがない場合は「18番目のゴール」を作ろう

3



書いたふせんを新聞の見出しの近くに仮どめする

のりは少なめに

ワークI

4



選んだ記事、ふせん、つぶやきをグループで発表し合い共有しよう

ワークII

5



掲示した新聞にふせんを貼り直そう

6



参加者みんなのふせんを見て、全員で考えを共有しよう



体験版の進め方

- ① 「17のゴール」と関連づけながら新聞記事を読もう
- ② 関連する「ふせん」を切り取り、余白に「つぶやき」を書こう
- ③ 記事の近くにふせんを貼り、グループで発表し合い共有しよう

いちから
わかる!



「食品ロス」が 問題になっているね

国内の食品ロス(2016年度推計)



食品ロスを減らすために 家庭でできること

消費者庁などへの取材から

- ✓ 買い物の前に冷蔵庫をチェックする
- ✓ 使い切れる分だけ買う。空腹時は多く買いがちになるので注意
- ✓ 家にあるものだけで料理する「在庫一掃の日」をつくる
- ✓ もし余ったら他の料理に作りかえる
- ✓ 余った食品をフードバンクに提供する

家にある卵と肉を
使おう!



国内では年643万トンと推計。45%が家庭から出ている

コブク郎 最近、「食品ロス」という言葉をよく聞くよ。

A まだ食べられるのに捨てられてしまう食べ物のことだね。節分で食べる「恵方巻き」が大量に処分されたことが問題となった。傷などがあって基準に当てはまらず出荷できない食べ物や、小売店での売れ残り、飲食店や家庭での食べ残しなどで発生する。

コ 国内では、どれくらいの食品ロスがあるの？

A 農林水産省などによると、年643万トン(2016年度)と推計されている。1人あたり毎日お茶碗1杯分の食べ物を捨てている計算だ。55%が事業者、45%が家庭から出ている。飢餓に苦しむ人々に向けた国連の食料援助量(17年)の1・7倍にあたる。

A 世界には栄養不足の人がたくさんいるのに、食料の多くを輸入に頼る日本がロスを出し続けるわけにはいかない。そこで国と自治体、事業者、消費者が協力してこの問題に取り組むよう求める「食品ロス削減推進法」ができたんだ。来月1日から実施される。生活に困った人へ食品を届ける「フードバンク」への支援も盛り込んだ。

コ 事業者はどんな取り組みを始めているの？

A コンビニ各社が対応を進めている。ローソンとセブンイレブンは、消費期限が近づいた弁当やおにぎりを実質値引きする。ファミリーマートは恵方巻きなどを完全予約制にする。

コ 消費者には何ができるかな？

A 「商品がない」などと苦情を言えば、店側は多めに仕入れることになり、ロスが出やすくなる。品切れや鮮度を気にしすぎないようにするなど、消費者の意識も変えることが必要だよ。買い物の時、商品棚の奥にある期限の長い食品ではなく、手前から取る「てまえどり」も一つの方法だ。自分ができることから始めたいね。